

東京女子大学 日本語教師海外派遣プログラム説明に向けた事前課題（案）

6月29日の授業に向けた事前課題

国際交流基金
日本語事業部
2018年6月18日

■課題

国際交流基金では、日本語教授経験の全くない方、あるいは少ない方でも応募できる短期・長期のプログラムから、日本語教育のスペシャリストとして世界各地の中核的な日本語教育機関において、カリキュラムや教材作成の助言や現地教師の育成などを行う日本語専門家の海外派遣を行っています。

以下のウェブサイトで、各カテゴリーで派遣された方々の現地レポートを参照した上で、今後、ご自身が国際交流基金の海外派遣プログラムに参加するとすれば、①どのカテゴリーで、②どの国・地域に行きたいか、③そのためには今後、どのような学びや経験を積み重ねていけばいいのか、④（また、自分自身の強みを活かし）具体的にどのような活動を行いたいのか、考えをA4一枚にまとめて記述し、当日ご持参ください。提出は任意です。氏名を記しても匿名でも構いません。

（内容を今学期の授業の成績評価に使用することはありません。松尾より）

【活動レポート】

- ・日本語上級専門家・日本語専門家

世界の日本語教育の現場から（国際交流基金日本語専門家レポート）

<https://www.ipf.go.jp/j/project/japanese/teach/dispatch/voice/voice/index.html>

- ・日本語指導助手

日本語指導助手レポート

<https://www.ipf.go.jp/j/project/japanese/teach/dispatch/voice/assistant/index.html>

- ・米国若手日本語教員（J-LEAP）

活動報告書

https://www.ipf.go.jp/j/project/japanese/teach/dispatch/voice/j-leap/report/term_7/index.html

- ・EPA日本語講師

EPA（経済連携協定）日本語予備教育事業— 講師インタビュー —

<https://www.ipf.go.jp/j/project/japanese/education/training/epa/interview/index.html>

・日本語パートナーズ

パートナーズの声

<http://jfac.jp/partners/voice/>

※参考情報（海外派遣プログラム一覧）



応募先の種類	日本語パートナーズ	米国若手日本語教員 (J-LEAP)	EPA日本語講師	日本語指導助手	日本語専門家	日本語上級専門家
年齢	20-69歳	35歳未満	65歳未満	35歳未満	65歳未満	65歳未満
学歴	派遣国・地域により異なる	大卒以上	大卒以上	大卒以上	日本語教育関連分野で修士号以上	日本語教育関連分野で修士号以上
日本語教育学習歴	不問	(a),(b),(c)のいずれか ※1	(a),(b),(c)のいずれか ※1	(a),(b),(c)のいずれか ※1	日本語教育関連分野で修士号以上	日本語教育関連分野で修士号以上
日本語教授経験	不問	望ましい ※2	望ましい ※2	望ましい ※2	2年以上	10年以上
派遣期間	1年未満	通常2年	約7か月	通常2年	通常2年 (1年の延長の可能性あり)	通常2年 (1年の延長の可能性あり)
派遣国・地域	東南アジア及び台湾	米国	インドネシア フィリピン	海外 (募集年により国は異なる)	海外 (募集年により国は異なる)	海外 (募集年により国は異なる)

※1:(a)大学で日本語教育を主専攻/副専攻として修了したもの、(b)日本語教育能力検定試験に合格した者、(c)日本語教師養成講座420単位時間を修了した者

※2:日本語教授経験については不問ながら、ティーチングアシスタントやチューターも含め経験があることが望ましい。

以上